



1 楽しい授業が学び深める!



新採教員研修会の様子

県立高等学校の新採教員研修会（工業科等）が、1月7日（火）に本校で実施され、6人の新採教員が出席しました。開講式では、酒井雄一学校長、近藤正伸指導主事（県教育庁）、久松政信校長（県立水戸工高）から、情報教育の意義と新採教員への期待とエールがありました。

本校の概要説明や施設見学の後、「ロボット研修会」が実施されました。ユニークなアイスブレイクの座学から始まり、実技ではレゴロボットやドローン操作もあり、参加者は楽しそうに体験していました。担当した榎引理講師は「楽しい授業が子供たちの学びを深めるきっかけになる」と話されていました。

参加した大山智弘先生（波崎高教員）は「楽しい学びを生徒に伝えていきたい」と意欲をのぞかせていました。

2 学生一押しの記事!



一押し記事を発表する学生

情報システムコース1年生の教室では、新聞活用トレーニングの講座があり、グループ毎に選んだ新聞紙を読み込み、IT技術者に知って欲しい一押し記事を探し発表していました。

この日、各グループからは、①「AI翻訳クセ把握が商機」、②「自動運転AI開発へ」、③「半導体、AI向け7割に」、④「実在しない児童のポルノ」、⑤「さい銭にペイペイ」の5つの一押し新聞記事が選ばれ、一押しの理由や、IT技術者に役立つ情報として発表していました。

学生からは、「半導体の7割がAI向けと聞いて驚いた。今後益々需要が広がるので、AIの活用スキルを磨いておきたい」、「茨城に住むなら車は重要です。これからの自動運転について学んでおきたい」、「さい銭にペイペイ活用は、地方活性化のヒント」などと、新聞記事から様々な気づきを得ていました。

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞朝日新聞（2024年12月13日）
交通・物流の「2024年問題」
～県議会調査特別委 県に56項目提言～

●木元心結さん（多賀高卒）

◇要約：労働時間に上限が課せられることによる人手不足、燃料費の高騰等の2024年問題に直面し、委員会では、持続可能な事業の在り方を検討した。

地域公共交通と物流システムが持続的に機能を発揮できる取り組みが望まれる。

◇感想：記事からその解決案についてグループで話し合った。再配達では、置き配を利用、アプリでより正確な配達時間を提示、ロボット支援などの意見が出た。

様々な課題に、学んでいるITを結び付け考えられるよう日頃からいろいろな情報を取り入れていきたい。

●野村未結さん（水戸二高卒）

◇感想：労働時間に上限が課せられるほど労働時間が厳しくなった2024問題。私も再配達をお願いすることもある。

自治体や交通事業者が官民一体となり、個人だけでなく組織で取り組むことで、様々な案も出てくるのでとても良い。

●高木皓貴さん（水戸啓明高卒）

◇感想：交通と物流の課題解決に向けた官民連携とIT活用の提言は、効率の向上や環境負荷の低減に寄与する重要な取り組みだと感じた。

特に「MaaS」（ITを利用して複数の交通手段を組み合わせたサービス）の導入や再配達等の検討は、持続的にその機能を発揮させるための取り組みであると考えます。

●飛田美優さん（勝田工高卒）

◇感想：両分野が抱える問題には様々な要素があり、簡単に解決できるものではないと思った。労働力不足の悪循環を抜け出すには、自動化を含め人に頼らない仕組み作りが必要だと思う。ドローンの活用方法にも注目したい。

●天ヶ谷祐基さん（石岡一高卒）

◇感想：人手は益々減り、燃料費が高騰しているの、早急な対応が必要だと思う。

ITの技術を活用し、今の人々の生活に欠かせない物流をサポートしたい。取り組みの推進だけでなく達成させていきたい。

